

ワード・スタフォード牧師の「アメリカ聖書協会」への貢献

肴 倉 宏

The Rev. Ward Stafford's Contribution to the American Bible Society

Hiroshi Sakanakura

抄 録

本稿は、ワード・スタフォード牧師の「アメリカ聖書協会」への貢献について述べている。彼は、多くの「船員聖書協会」、「女性聖書協会」、「青年聖書協会」を設立した。

キーワード：ワード・スタフォード牧師、「アメリカ聖書協会」、「船員聖書協会」、「女性聖書協会」、「青年聖書協会」

(2010年9月28日受理)

Abstract

This paper explains the Rev. Ward Stafford's contribution to the American Bible Society. He founded many Marine Bible Societies, Female Bible Societies, and Young Men's Bible Societies.

Key words: The Rev. Ward Stafford, The American Bible Society, Marine Bible Societies, Female Bible Societies, Young Men's Bible Societies

(Received September 28, 2010)

序 論

「アメリカ聖書協会」(the American Bible Society) 設立の目的は、註の無い聖書を広く普及させることである。「アメリカ聖書協会」は、安く大量に聖書を印刷し、それらを大量に配布するために設立された。聖書を安く大量に印刷するためには、最新の印刷技術である聖書のステロ版を入手することが必要である。最新の印刷技術であるステロ版をイギリスから輸入するには、大きな資金がいる。ステロ版購入資金を調達するには、「アメリカ聖書協会」の支部をアメリカ各地に設立し、会員数を増やすことが必要になってくる。聖書協会の支部数と会員数を増やすことは、資金を増やすのに重要であるだけでなく、支部数と会員数の拡大は、印刷された聖書を配布するための流通経路を確保し、配布に協力する人々を募ることにもなる。「アメリカ聖書協会」の目的の実現のため、支部や会員を拡大することが非常に重要なのである。「アメリカ聖書協会」の支部拡大に貢献した最初

の一人は、ワード・スタフォード牧師 (the Rev.Ward Stafford) である。本稿では、スタフォード牧師が「アメリカ聖書協会」に貢献するようになった経緯やどのような貢献をしたのかを「女性伝道協会」での活動、「船員聖書協会」の設立活動、「アメリカ聖書協会」のエージェントとしての働きを中心に述べてみることにする。

1. 「女性伝道協会」での活動

1. 1 『新しい伝道分野』出版

「女性伝道協会」⁽¹⁾ で働き始める以前のワード・スタフォード牧師の経歴に関しては、残念ながらあまり情報が無い。彼は、1788年に生まれ、ティモシー・ドワイト (Timothy Dwight) の学長時代にエール大学を卒業、その後、長老派の牧師になったことくらいしか知られていない。⁽²⁾ スタフォード牧師のことが知られるようになるのは、1816年にニューヨーク市の「女性伝道協会」で働き始めてからである。

「女性伝道協会」は、1796年にオランダ改革派とバプテスト教会がロングアイランドのインディアンにキリスト教を広めるために共同で設立した「ニューヨーク伝道協会」(the New York Missionary Society) の女性支部として設立されている。この女性支部は、「ニューヨーク伝道協会」の活動を資金面で援助することを重要な活動としていた。女性支部は、母体の「ニューヨーク伝道協会」を支える裏方の活動に徹していたのである。しかし女性たちは、資金集めという裏方の活動に満足できず、自分たち独自の積極的な活動をしようとした。そのため、彼等は母協会の「ニューヨーク伝道協会」から分離して1816年に「女性伝道協会」として独立した。⁽³⁾ 彼等はニューヨーク市とその近郊にいる貧しい人々に伝道するためにワード・スタフォード牧師を協会の伝道者として招いたのである。

スタフォード牧師は、1817年に『新しい伝道分野』と題して「女性伝道協会」への報告書を作成し出版している。⁽⁴⁾ 彼は、その報告書の中で就任以来約9ヶ月の伝道活動を振り返りながら重要ないくつかの提言をしている。スタフォード牧師の『新しい伝道分野』は、出版されると大きな反響をもたらした。ニューヨーク州知事ディウイト・クリントン (DeWitt Clinton) は、貧困問題の悪影響とそれに対する防止策や是正策を提言したスタフォード牧師を讃えている。⁽⁵⁾ この報告書の出版が、スタフォード牧師の「アメリカ聖書協会」の支部拡充に直につながる訳でない。けれども、報告書の中で述べられている事柄が、彼の聖書協会への貢献へと結びついていくのである。彼の提言は、大別して二つある。一つは、貧困層の倫理的向上を目指した提言である。もう一つは、船乗りへの宗教教育を与える機会を増やすことである。

1. 2 貧困層の倫理的向上のための提言

スタフォード牧師は、貧困層の倫理的向上のために座席料無料の礼拝所を建てることを提案している。彼は、伝道活動をしながらニューヨーク市の各地区を回り、貧しい人々に関する情報を得た。彼は、当時のニューヨーク市の人口を120,000人くらいと推定してい

る。⁽⁶⁾ ニューヨークの人口と教会の数や分布を見ると偏りがみられるのである。1600年代から人々が住み始めた町の下部の方に教会は集中しているのだが、人々は町の上部の方に多く住んでいる。町の上部の方は、人口が多いけれど教会が少ない。(6) 教会の分布が偏っているだけでなく、教会に出席しようとしても、そう簡単にいかない事情がある。それは、家族や個人が教会の座席を所有するか借りることになっていたので、無料の座席は少ない、また、安く借りられる座席も少ないからである。(7) 教会の座席販売は、教会の建築費用、牧師の報酬、教会の運営費を捻出するため行われていた。⁽⁷⁾ 教会の座席販売制は、結果的に貧しい人を教会から閉め出すことになったのである。このような事情を考えてスタフォード牧師は、出席したい人には常に開かれた座席料無料の礼拝所を建てることを提案した。

スタフォード牧師が次に提言していることは、子どもたちに宗教教育を与える「日曜学校」をたくさん作ることである。彼は安息日に一回「日曜学校」の生徒たち400人から600人を対象に説教している。(4) この子供たちは、ヘンリー通り⁽⁸⁾の「第2無料学校」(the Free School, No.2)に来ている子供たちである。(4) 今日の公立学校制度につながる「無料学校」は、ニューヨーク市で1805年にトーマス・エディ(Thomas Eddy)やジョン・マレー(John Murray)たちを中心に設立されている。「第1無料学校」は、1807年に開校、「第2無料学校」は、1811年に出来ている。⁽⁹⁾ ヘンリー通りの「無料学校」に来ている子どもたちは、「日曜学校」にも出席していたのである。ニューヨークの「日曜学校」運動は、ディビー・ビシューン夫妻(Divie Bethune)によって1803年頃から始められている。⁽¹⁰⁾ 彼等は、自分の家に子供たちを集め、読み書きや教理問答を教えた。この初期の段階から発展して、1816年にディビーの妻ジョアナ(Joanna)は「ニューヨーク女性日曜学校連合」(the New York Female Sunday-School Union)設立に協力、同じ年にディビーは、エリエイザー・ロード(Eleazar Lord)やジョン M. マーソン牧師(John M. Mason)たちと「ニューヨーク日曜学校連合」(the New York Sunday-School Union)を設立している。スタフォード牧師は、「無料学校」や「日曜学校」と連携できてはじめて子どもたちの基礎学力を向上させ、聖書や伝道冊子の配布によって宗教教育を深められると考えたのである。

1.3 船乗りへの教育機会を増やすための提言

スタフォード牧師は、港町であるニューヨーク市で伝道活動をしていて船員に対する教育機会が少ないことを知った。(4) 彼は、多くの船乗りと会っただけでなく、マンハッタンの造船所の借りた部屋で彼等に説教したこともある。(4) 彼のこの経験から、船乗りたちが基礎教育も宗教教育も十分に受けていないことを知るようになった。そこで、彼はすべての港町に「船員学校」(Marine School)を作るべきであると言う。その学校では「読み、書き、算数、地理、航海術、その他の知識」(33)が教えられるようにする。出来れば、学校に図書室もあれば良い。確かに、一つの港で過ごす時間は短いとしても、船乗りが立ち寄るすべての港町で過ごす時間数を計算すると、約3ヶ月になる。しかも、港にいる間、船乗りたちの仕事はないのである。学校が作られ、船員を引きつける努力がされれば、船

乗りたちは利用するし、陸で学んだことを船上でも続けると期待できると Staford 牧師は主張するのである。(33)

次に、彼は船員たちが会員になれる聖書協会の設立を呼びかけている。船の乗組員全員で一冊の聖書を読むよりも、一人一人が自分で購入するか会員になって聖書を持つほうがはるかに聖書に関心を示すだろう。Staford 牧師は、「出港してしまえば、聖書だけが宗教教育の唯一の手段なので、永遠の安らぎの港に導くこの羅針盤を持たせず去らせてはならない。」(34) と述べている。彼は、船乗りを会員にして彼等に聖書を配るための聖書協会の設立を訴えている。

三番目に、Staford 牧師は船乗りのための教会を作るべきであると提案している。船乗りたちは、自分たちを異質な存在と考えているし、回りからもそのように受け取られている。彼等は仲間以外とはつきあわないうえに、港に在る間でもほとんど知り合いもない。さらに、彼等の服装が一般人と違って目立つのである。このような船乗りが教会にすれば、すぐに船乗りと分かり回りからじろじろ見られて、居づらいのである。その結果、彼等は飲み屋に入り浸りになり、時間とお金を浪費してしまう。船乗りの置かれている状況を考えると、彼等が行きやすい船乗りのための教会を設立する必要がある。(34 - 36) Staford 牧師は、宗教教育を受けて船乗りが敬虔になれば、彼等は海外伝道に大いに活躍できる可能性を持っていると期待するのである。(46 - 47) 実際、彼は『新しい伝道分野』の最初のところで、この本の売上から利益が出れば船乗りのための礼拝所を建てたいと述べている。

2. 「船員聖書協会」の設立活動

2.1 「ニューヨーク船員聖書協会」

Staford 牧師は、『新しい伝道分野』で重要な提言をしているだけでなく、「船員聖書協会」(a Marine Bible Society) の設立のために熱心に働いていくのである。1817 年 2 月 12 日にクリストファー・プリンス船長 (Captain Christopher Prince) の自宅で商人や船長たちが「船員聖書協会」設立の予備会合を開いている。3 月 14 日に「ニューヨーク船員聖書協会」(the Marine Bible Society of New-York) が正式に設立され、協会の会長にパール通りの商人ジョナサン・リトル (Jonathan Little)、副会長にクリストファー・プリンス、そして協会の連絡係に Staford 牧師が選ばれている。協会が出来るとすぐに、合衆国海軍のホーネット号の乗組員 50 人が会員になったばかりか、ニューヨーク州出身の合衆国副大統領ダニエル・トンプキンス (Daniel Tompkins) とニューヨーク州知事ディウイト・クリントンが終身会員になっている。⁽¹¹⁾ しかも「ニューヨーク船員聖書協会」は、設立されるとすぐに「アメリカ聖書協会」の支部になっている。⁽¹²⁾

「ニューヨーク船員聖書協会」が「アメリカ聖書協会」の支部になった理由は、聖書を安く購入できるからである。1817 年 5 月に出された「第一回年次報告書」(First Report) で「アメリカ聖書協会」は、聖書の販売価格について述べている。紙代、印刷代、製本代

に利益、保険料、版の消耗代を考えて、5%上乗せして聖書の販売価格とすると述べている。ただし、「アメリカ聖書協会」の支部あるいは会員は、5%分を値引きして原価で聖書を購入できると決めている。⁽¹³⁾「アメリカ聖書協会」は、支部や会員とそうでないもので価格の差別化をしている。「ニューヨーク船員聖書協会」が支部になることで、聖書を安く購入できるだけでなく、より多く配布できることになる。「アメリカ聖書協会」にとっても、新しい支部が加入することで、会員が増えるだけでなく、新しく流通経路が出来ることになる。「ニューヨーク船員聖書協会」の設立は、船乗りたちの倫理的向上につながるだけでなく、「アメリカ聖書協会」にとっても利点があると言える。

2.2 「船員教会」での活動

スタフォード牧師は、「船員教会」(the Mariners' Church) 設立にも係っている。『新しい伝道分野』の中で船乗りのための教会の必要性を述べた彼は、そのために奔走している。教会にふさわしい場所がイースト河の波止場に近いルーズベルト通りに見つかり、1820年6月4日の日曜日に献堂式が行われている。⁽¹⁴⁾ ジョン・ピンタード (John Pintard) は、娘に宛てた1820年6月6日の手紙の中で献堂式の夕方の礼拝の様子について書いている。「日焼けした船乗りで会堂がいっぱいになり、彼等の服装も振る舞いも礼儀にかなっていて、みな真剣に注意深く聞いていたのは嬉しかった。近くに座っていた老水夫が聖書を見せて下さいと話しかけてきた。...礼拝が終わると、船員聖書協会の役員が聖書を持っていない船乗りは明日訪ねてくれれば聖書をあげますと言った。この協会は良い働きをしている。」⁽¹⁵⁾ 「船員教会」の礼拝に出席した船乗りで聖書を持っていない人には、「ニューヨーク船員聖書協会」から聖書が配られている。「ニューヨーク船員聖書協会」と「船員教会」に深く係っているスタフォード牧師は、教会で船員を対象に説教するだけでなく聖書協会の役員として聖書も配布しているのである。

2.3 ニューイングランド周遊

「ニューヨーク船員聖書協会」と「船員教会」設立を果たしたスタフォード牧師は、ニューイングランド各州の主要な港町に「船員聖書協会」設立を推進する旅に出かけている。1820年8月にニューヨークを出発、9週間以上を要し、陸路や海路で1,600マイルの旅である。しかもこの旅は、公的な機関の代理人としてではなく、私的な旅なのである。彼の旅の成果は、短期間で20以上の船員聖書協会の設立に係っていることに示されている。そのうち14の船員聖書協会は、「アメリカ聖書協会」の支部になっている。「ボストン近郊船員聖書協会」(Boston and Vicinity Marine Bible Society) は、1820年9月にウィリアム・ジェンクス牧師 (the Rev. William Jenks) を連絡係として「アメリカ聖書協会」に加入している。ロード・アイランド州の「プロビデンス船員聖書協会」(Providence Marine Bible Society) は、ジェレマイア・リピット (Jeremiah Lippit) を連絡係に、コネチカット州の「ハートフォード船員聖書協会」は、ウィリアム・W・エルスワース (William W. Elseworth) を連絡係に、11月に加入している。「アメリカ聖書協会」の運営委員たちは、1821年の総会

で承認された「第5回年次報告書」で14の新規加入協会を掲載しているだけでなく、スタフォード牧師の活動を讃えている。⁽¹⁶⁾ 其上、運営委員たちは、スタフォード牧師の手紙と彼が旅行中につけた日記の抜粋を年次報告書のアペンディクスに載せ、多くの読者に彼の活動の様子が具体的に伝わるように計らっている。

スタフォード牧師の日記の抜粋を読むと、彼は一つの港町に2～3日滞在するだけで次から次へと移動している。そのことは、日記の日付と場所から分かる。たとえば、8月12日ナンタケット、8月14日ニューベッドフォード、8月16日ニューポート、8月21日プロビデンスという具合に移動している。このように短期間の滞在と移動を繰り返しながら、9月には一週間で4つの船員聖書協会の設立に彼は立ち会っている。⁽¹⁷⁾ (114 - 116)

スタフォード牧師が短期間で多くの船員聖書協会を設立できたのには、いくつかの理由がある。彼は「ニューヨーク船員聖書協会」と「船員教会」で知り合った船乗りや船長たちの人脈を活用した。バース(Bath)の町では、昔からの船乗りの友人が設立総会に出席している。(118)次に、彼は牧師たちの協力を取り付けている。プロビデンスでは、彼はバプテスト派のガノー牧師(the Rev.Gano)と相談している。ガノー牧師は、日曜日の夕方、彼の教会でスタフォード牧師が船員聖書協会設立の重要性を訴える説教をすること、他の教会員にもお知らせをすること、設立のための会合を月曜日の夕方に教会で持つことを提案してくれた。スタフォード牧師は、牧師の協力を得ることで教会員たちに訴えることが出来たのである。(116)最後に、彼は地元の新聞を利用している。ニューポートでは、夕方に開かれる予定の設立集会の場所と時間を地元の朝刊に掲載してもらっている。こうして彼は、多くの一般市民に船員聖書協会の設立集会が開かれることを知らせている。夕方の設立集会も効率よく進められている。議長と書記の選出、目的の説明、討議ののち設立の決議、会則の採択までは時間がかからなかった。会則も「ニューヨーク船員聖書協会」のものをひな形にしているので一から作る必要が無かった。会則が採択されると、出席していた人たちが会費を払って最初の会員になるのである。協会組織の運営体制、たとえば、会長、副会長、連絡係の選任は、その場で決まればそれにこしたことは無いけれど、後で時間をかけて選んでもよいことである。会員の拡充についても協会組織の運営体制が出来た後でも構わないのである。スタフォード牧師は、船員聖書協会設立の告知から設立までを人々の善意に支えられながら、短時間で効率的にすすめている。

3. 「アメリカ聖書協会」のエージェントとしての働き

3.1 「アメリカ聖書協会」のエージェント

「アメリカ聖書協会」がエージェントを派遣するようになったのには、それなりの事情がある。1816年に「アメリカ聖書協会」が設立されて以来、加入する支部の数は増えてきている。しかし、全国的に聖書を配布するという目的に照らすと、支部の数は十分とは言えなかった。さらに、設立されたけれども活動が低調な支部もあったし、原価で聖書を購入し近隣に配り終えると活動を停止するところもあった。そのため「アメリカ聖書

協会」の運営委員会は、1818年に5人からなる「支部協会委員会」(the Auxiliary Society Committee)を設けた。彼等の仕事は、支部の設立や支部の活動を活性化する方法を提言することである。⁽¹⁸⁾ 実際、彼等は、各地の聖書協会や個人に回覧状をまわし協力を呼びかけている。回覧状を送付したのは、エージェントの人選と旅費、宿泊費、報酬を節約するためであった。だが、1819年にアメリカを不況が襲ったこともあって、回覧状を送付してもあまり効果がなかった。⁽¹⁹⁾ このような経緯から、運営委員会はエージェントを派遣することにした。

「アメリカ聖書協会」の運営委員会がスタフォード牧師をエージェントに選任したのは、彼のこれまでの実績を考えてのことである。「アメリカ聖書協会」の会則第9条で36人の運営委員のうち24名は、ニューヨーク市かその近郊に住むものと定められている。⁽²⁰⁾ ニューヨーク市に住む多くの運営委員は、スタフォード牧師が「女性伝道協会」で働き『新しい伝道分野』を出版、「ニューヨーク船員聖書協会」と「船員教会」設立に関わり、その上、ニューイングランド各地に「船員聖書協会」を設立したことを知っているのである。ニューヨーク州知事デウィット・クリントンは、スタフォード牧師の『新しい伝道分野』を高く評価していた。ニューヨーク出身の合衆国副大統領ダニエル・トンプキンズと知事のクリントンは、「ニューヨーク船員聖書協会」の終身会員になっていたこともすでに述べた。トンプキンズ、クリントン、「無料学校」の設立に尽力したエディ、「無料学校」協会会計のレオナード・ブリーカー (Leonard Blecker)、「日曜学校」運動に力をそそいだビシューン、「船員教会」の献堂式に出たピンタードは、1816年の「アメリカ聖書協会」の設立以来、副会長、運営委員、記録係として「アメリカ聖書協会」の運営に深く係っている。しかも、スタフォード牧師自身が、ニューイングランド各地で「船員聖書協会」を設立した報告書の最後でアメリカ各地にエージェントを派遣すれば大いに歓迎されるだろうと建設的な提案をしていた。⁽²¹⁾ このようなことから、運営委員会が、スタフォード牧師を「アメリカ聖書協会」のエージェントに選任しても何も不思議なことは無いのである。

「アメリカ聖書協会」のエージェントとしてスタフォード牧師は、デラウエア州、メリーランド州、バージニア州を回ることになった。実際、ピンタードは、娘に宛てた手紙でスタフォード牧師の任務と担当地域を書いている。⁽²²⁾ 1821年6月にニューヨークを出発して、スタフォード牧師はニュージャージー州のバーリントンに行き「アメリカ聖書協会」会長のエライアス・ブードノ (Elias Boudinot) に会い、紹介状に彼のサインをもらう。ブードノの署名入りの紹介状があれば、スタフォード牧師は、どこでも「アメリカ聖書協会」のエージェントとして認知してもらえる。⁽²³⁾ 彼は、デラウエア州、メリーランド州、バージニア州で女性の聖書協会や青年の聖書協会を設立だけでなく、低調あるいは休眠状態の支部を活性化しているのである。

3. 2 「女性聖書協会」 (a Female Bible Society)

スタフォード牧師は、訪問した場所で女性たちに働きかけ、女性たちだけで聖書協会を設立するように促している。たとえば、デラウエア州ドーバーでは、多くの女性

たちと月曜日に聖書協会設立について相談し、次の日の午後ゴールズバラ夫人 (Mrs. Goldsborough) 宅で設立集会を持ち、「ドーバー及び近郊女性聖書協会」(the Auxiliary Female Society of Dover and its vicinity) を設立している。(187) 彼は、また、各地で公開の聖書協会設立集会を最大限に活用している。公開の集会には、聖書協会設立に関心のある男性だけでなく女性たちもやってくる。午前中に公開の集会を開き、聖書協会設立の意義と必要性を訴える。この結果、男性たちが運営する聖書協会が設立されるようになる。スタフォード牧師は、公開の集会に出席していた女性たちに話しかけ、午後にくたたく集まってもらい、女性たちだけで聖書協会を設立するように働きかけている。こうして、彼はメリーランド州スノーヒルとイーストンで「女性聖書協会」(a Female Bible Society) を設立している。(190,194) こうして、スタフォード牧師は、デラウェア州、メリーランド州、バージニア州で多くの女性聖書協会を設立している。

3. 3 「青年聖書協会」(a Young Men's Bible Society)

スタフォード牧師は、女性たちに働きかけただけでなく、青年たちにも聖書協会を設立するように働きかけている。1821年7月9日に「ニューキャスル郡青年聖書協会」(the Young Men's Auxiliary Bible Society for the County of New-Castle) が、スタフォード牧師の働きかけで設立された。(186-187) スタフォード牧師がこの協会の設立に動いたのは、「デラウェア聖書協会」(the Delaware Bible Society) の役員を訪問して活動状況を聞いたからである。「デラウェア聖書協会」は、州の名前がついているけれど、活動はウィルミントン (Wilmington) 近郊に限られているし、若者がほとんど参加していない。そこで彼は、青年聖書協会と州の各郡に郡聖書協会を設立することを考え、最初に「ニューキャスル郡青年聖書協会」設立にこぎつけたのである。この協会設立を始めとして、スタフォード牧師はいくつかの重要な都市で青年聖書協会を設立している。その一つは、首都ワシントンでの青年聖書協会の設立である。この都市には、当時約2万人の人口に加え、政府の役人として雇われている全国各地出身の若者がたくさん働いていた。多くは、上流階級の出身で才能もある。彼等のエネルギーをうまく使えば、彼等を誘惑から守れるだけでなく、出身地の親戚や友人たちにも健全な影響を与えられるとスタフォード牧師は考え、設立を働きかけたのである。(211) もう一つは、フィラデルフィアの青年聖書協会設立である。フィラデルフィアは、1809年にアメリカで最初の聖書協会が設立されたところである。しかし1816年に全国組織である「アメリカ聖書協会」が設立されたとき、「フィラデルフィア聖書協会」は「アメリカ聖書協会」に加盟しないで独自の活動をしていた。スタフォード牧師は、アメリカ最大の都市で最古の「フィラデルフィア聖書協会」が全国組織と結合しないで活動していることを残念に思っていた。そのため彼は、「アメリカ聖書協会」の支部として活動する青年聖書協会を作ろうと考えた。彼の働きの結果、「フィラデルフィア青年聖書協会」(the Young Men's Auxiliary Bible Society of Philadelphia) が設立されたのである。(213-214) こうしてスタフォード牧師は、いくつかの重要な都市で青年聖書協会を設立している。

3. 4 地方聖書協会の活性化

スタフォード牧師は、聖書協会が作られたけれども今は活動が低迷していたり停止している協会を活性化したり、消滅した協会を立て直す努力をしている。スノーヒル (Snow Hill) の聖書協会は、消滅して2年ほどたつ。(189-190)「コロンビア特別区聖書協会」(the District of Columbia Bible Society) は、活動を停止している。(197) このような状況に至った原因は、その地の聖書協会があまりにも広い地域を守備範囲にしていること、そして協会の役員たちが各地に分散して住んでいるためである。その結果、役員たちが協会を運営してゆくための会合を頻繁に開けないし、開いたとしても運営に必要な出席数を確保することも出来ない。聖書協会の低迷している原因を理解したスタフォード牧師は、広い守備範囲をいくつか分割し活動しやすいように再編している。彼は、州の各郡で聖書協会の設立を働きかけているし、女性聖書協会や青年聖書協会の設立を促している。スノーヒルの場合、スタフォード牧師は消滅した聖書協会に代わって新しい聖書協회를午前中に設立し、午後には女性聖書協회를設立している。(189-190) さらに、スタフォード牧師は、活動を停止している「コロンビア特別区聖書協会」の役員を訪問して協会の解散とジョージタウン、アレキサンドリア、ワシントンに聖書協회를設立することを提案し承認されている。(197) 彼は、活性化を必要としている協会の役員と何度も会い協議している。こうして彼は、低迷している支部を活性化し、消滅した支部に代わって新しい支部を設立しているのである。

結 論

スタフォード牧師は、1816年にニューヨーク市の「女性伝道協会」で伝道者として働き始めたことを契機に「アメリカ聖書協会」の支部拡充に貢献することになった。彼は、ニューヨーク市で多くの船乗りと会い彼等が宗教教育を受ける機会が与えられていないことを知った。そのため彼は、船乗りのための「船員聖書協会」設立を推進した。彼は、ニューヨーク市だけでなくニューイングランド各地に「船員聖書協会」を設立した。しかもこれらの多くは、「アメリカ聖書協会」に加入することになった。彼のこの貢献の結果、スタフォード牧師は「アメリカ聖書協会」のエージェントとして採用されることになった。

「アメリカ聖書協会」のエージェントとして彼は、デラウェア州、メリーランド州、バージニア州を回り支部の拡大活性化に努力した。彼は、各地に女性聖書協会、青年聖書協会、郡聖書協회를多く設立した。「アメリカ聖書協会」は、スタフォード牧師の貢献を多くの人に知ってもらうために「年次報告書」に掲載し、彼の努力を讃えている。「年次報告書」に掲載されたスタフォード牧師の手紙や報告の抜粋は、後に「アメリカ聖書協会」のエージェントとして採用される人たちの指針にもなったのである。スタフォード牧師の支部拡大の貢献は、「アメリカ聖書協会」への資金の流れと聖書の配布経路を確実なものにすることにつながった。このようなスタフォード牧師の貢献は、「女性伝道協会」で伝道者として働き始めたことから始まっているのである。

註

- (1)「女性伝道協会」の正式名称は、The Female Missionary Society for the Poor of the City of New-York and Its Vicinity である。本稿では、省略して「女性伝道協会」と呼ぶことにする。
- (2) Ronald Kverndal *Seamen's Missions: Their Origin and Early Growth* (Pasadena: William Carey Library, 1986) 417, Conrad Edick Wright *The Transformation of Charity in Postrevolutionary New England* (Boston: Northeastern University Press, 1992) 3, Peter J. Wosh *Spreading the Word: The Bible Business in Nineteenth-Century America* (Ithaca: Cornell University Press, 1994) 25
- (3) Raymond A. Mohl *Poverty in New York 1783-1825* (New York: Oxford University Press, 1971) 203-204, Carroll Smith Rosenberg *Religion and the Rise of the American City: The New York City Mission Movement, 1812-1870* (Ithaca: Cornell University Press, 1971) 54-55, Edwin G. Burrows and Mike Wallace *Gotham: A History of New York City to 1898* (New York: Oxford University Press, 1999) 384
- (4) Ward Stafford *New Missionary Field: A Report to the Female Missionary Society for the Poor of the City of New-York and Its Vicinity, at Their Quarterly Prayer Meeting, March, 1817* (New York: Printed by Clayton and Kingsland, 15 Cedar-Street, 1817)
- (5) Raymond A. Mohl *Poverty in New York 1783-1825* (New York: Oxford University Press, 1971) 207-208
- (6) Ward Stafford *New Missionary Field: A Report to the Female Missionary Society for the Poor of the City of New-York and Its Vicinity, at Their Quarterly Prayer Meeting, March, 1817* (New York: Printed by Clayton and Kingsland, 15 Cedar-street, 1817) 6 なお、段落 1.2 及び 1.3 の文中の () 内の数字は、上記 *New Missionary Field* からの引用、参照箇所を示している。
- (7) Charles C. Cole, Jr. "The Free Church Movement in New York City" *New York History*, 51 (1953) 284-297
- (8) ニューヨーク市の各通りの名前に関しては、次の本を参照している。
Henry Moscow *The Street Book: An Encyclopedia of Manhattan's Street Names and Their Origins* (New York: Fordham University Press, 1978) 59 and 90 ヘンリー通りは、Henry Rutgers から由来している。
- (9) James Grant Wilson ed. *The Memorial History of the City of New-York: From Its First Settlement to the Year 1892* (New York: New-York History Company, 1893) vol. III, 166-168, Carl F. Kaestle *The Evolution of an Urban School System: New York City, 1750-1850* (Cambridge: Harvard University Press, 1973) 83-84
- (10) Edwin Wilbur Rice *The Sunday-School Movement 1780-1917 and American Sunday-School Union 1817-1917* (Philadelphia: American Sunday-School Union, 1917) 53-61, Theodore Fiske Savage *The Presbyterian Church in New York City* (Published by The Presbyterian of New York, 1949) 58-59, Charles I. Foster *An Errand of Mercy: The Evangelical United Front 1790-1837* (Chapel Hill: The University of North Carolina Press, 1960) 162, Anne M. Boylan *Sunday School: The Formation of An American Institution, 1790-1880* (New Haven: Yale University Press, 1988) 135, Kenneth T. Jackson ed. *The Encyclopedia of New York City* (New Haven: Yale University Press, 1995) 1142
- (11) Ronald Kverndal *Seamen's Missions: Their Origin and Early Growth* (Pasadena: William Carey Library, 1986) 412-417
- (12) American Bible Society First Report (1817) 15
- (13) American Bible Society First Report (1817) 11
- (14) Ronald Kverndal *Seamen's Missions: Their Origin and Early Growth* (Pasadena: William Carey Library, 1986) 425-427

- (15) *Letters from John Pintard to His Daughter Eliza Noel Davidson 1816-1833* vol.1 1816-1820 (New York:: Printed for the New-York Historical Society,1940) 295-296
- (16) American Bible Society Fifth Report (1821) 24-27
- (17) American Bible Society Fifth Report (1821) Appendix, LIX (114-119), 114-116 なお、段落 2.3 の文中の () 内の数字は、上記 American Bible Society Fifth Report (1821) Appendix, LIX (114-119), からの引用、参照箇所を示している。
- (18) American Bible Society Third Report (1819) 19-20
- (19) American Bible Society Fourth Report (1820) 23-27
- (20) Henry Otis Dwight *The Centennial History of the American Bible Society* (New York: The Macmillan Company, 1916) 26
- (21) American Bible Society Fifth Report (1821) Appendix, LIX (114-119), 119
- (22) *Letters from John Pintard to His Daughter Eliza Noel Davidson 1816-1833* vol.2 1821-1827 (New York:: Printed for the New-York Historical Society,1940) 52
- (23) American Bible Society Sixth Report (1822) Appendix, *From a series of Letters written by the Rev. Ward Stafford, an Agent of the American Bible Society, on a tour through a part of the States of Delaware, Maryland, and Virginia, made for the purpose of forming Bible Societies* (185-215), 186 なお、続く段落 3.2、3.3 及び 3.4 の文中の () 内の数字は、上記 American Bible Society Sixth Report (1821) Appendix, (185-215), からの引用、参照箇所を示している。

